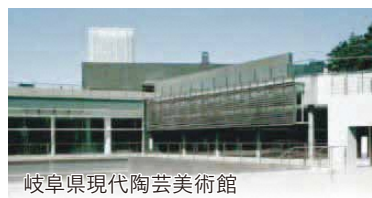


知る！見る！創る！ ぎふで文化芸術を体験！

岐阜県内各地で新しい発見をしながら、文化や芸術の世界を身近に感じてみませんか？詳しくは、各QRコードから公式サイトをご覧ください。



問い合わせ先

岐阜県美術館
TEL 058-271-1313



岐阜県図書館
TEL 058-275-5111



岐阜県現代陶芸美術館
TEL 0572-28-3100



岐阜県博物館
TEL 0575-28-3111



高山陣屋管理事務所
TEL 0577-32-0643



サイエンスワールド
(岐阜県先端科学技術体験センター)
TEL 0572-66-1151



受講までの 流れ



要・事前 申し込み

アートラボぎふの全プログラムは、完全予約制となっております。1人でも多くの方に参加・体験いただくために、**参加の可否に関しては開催日の1カ月前を目途に事務局よりご連絡いたします。**また、キャンセルが発生した場合、事務局から改めてご連絡させていただきます。WEBまたはFAXでお申し込みください。

WEBでの申し込みはこちら

アートラボぎふ
ONLINE内、
各プログラムページ
からお申し込みください。



FAXの場合は下記の必要事項をご記入の上、お申し込みください。 FAX **0584-71-6130**

プログラム名 ご希望のプログラム名を記入してください（複数記入可）							
代表者	ご住所						
	お名前 必須	よみがな ()		性別（自由記載）	年齢 歳		
	電話番号 必須	メールアドレス					
ご参加人数 名 (代表者様も含めた合計人数)	2名以上で参加される方はお連れ様全員の お名前（よみがな）・性別（自由記載）・年齢をご記入ください	よみがな ()	性別（自由記載）	歳	よみがな ()	性別（自由記載）	歳
		よみがな ()	性別（自由記載）	歳	よみがな ()	性別（自由記載）	歳

※諸事情により、内容の変更、開催時期の延期または中止とする場合があります。※お申込み情報は本事業の運営のみに使用させていただきます。

お問い合わせ アートラボぎふ事務局
受付 9:00～18:00（土日・祝日除く）

TEL **0584-71-6133**
EMAIL **artlabgifu@ne-planning.com**



ウェブサイト
www.g-kyoubun.or.jp/site/laboi



2025年6月10日現在

ART LAB GIFU the 8th 2025-2026

清流の国ぎふ芸術祭 アート体験プログラム

第8回 アートラボぎふ

アートラボぎふは、岐阜県内各地を舞台にアートに触れ、親しみ、発信できるアート体験プログラム。一流の講師を迎えてアートとの出会いの場（ラボ）として、想像する楽しさ、手仕事の奥深さ、伝統に息づく岐阜の魅力にもアプローチしていきます。8年目を迎えるアートラボぎふは、「本物」のアート体験をご用意して、あなたをお待ちしております。

講師陣

野村佐紀子 写真家

藤村港平 舞踊家

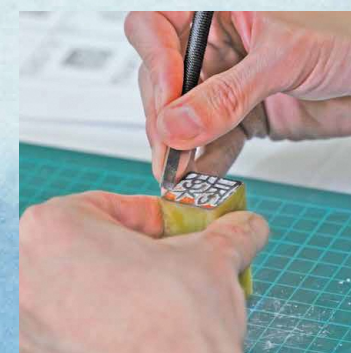
前野健 岐阜県立森林文化アカデミー准教授

立島恵 佐藤美術館学芸部長

長谷川喜久 日本画家・名古屋芸術大学教授

波多野公一 岐阜県書作家協会常任理事

安藤千寿香 竹細工職人



ぎふでつながる、
アートがひろがる
一流アーティストによる7つの体験プログラム

主催 / 岐阜県・公益財団法人岐阜県教育文化財団

ART LAB GIFU the 8th

1946年から2015年まで、69回の歴史を刻んだ「岐阜県美術展」は、全国規模の企画公募展「Art Award IN THE CUBE(AAIC)」(2017年・2020年・2023年の3回開催)、県民に広く発表機会を提供する「ぎふ美術展」(2018年・2019年・2021年・2022年・2024年の5回開催)、そして年間を通じて県内各地で様々なアートに親しむ「アートラボぎふ」(2018年から毎年開催)の3つの柱からなる「清流の国ぎふ芸術祭」に生まれ変わりました。8年目を迎える「アートラボぎふ」は岐阜県全域をアートの実験場(ラボ)に見立て、会場となる「場の力」にもこだわりながら、大人も子どもも県民の誰もがアートに出会い、触れて、知り、発信できる体験プログラムとして、「ぎふ美術展」や「AAIC」への参加にもつながる内容としてご提供していきます。

アート体験プログラム

※2回シリーズの連続講座です

写真実技講座 -BUNTSU 5-

「写真は想いが伝わる」。写真による文通を通して、多様な人々と交わり、想いを伝える写真の撮り方を学びます。文通と言っても手紙による言葉のやりとりではなく、テーマにまつわる写真を撮影して、交換します。第1回目の講座では、講師である野村佐紀子があなたのポートレートを撮影します。撮ること、撮られることの両方を体験できます。約2か月間に渡る文通の後、第2回目の講座でお互いがやりとりした作品を持ち寄り、二人のオリジナル写真集を完成させます。



市指定有形文化財 常盤座



ひと・まちテラス

●料金／1,000円 ●定員／20名
●持ち物／撮影機材(機材は問いません、スマホ等でも参加可能です。)

講師 野村佐紀子 NOMURA Sakiko 写真家

九州産業大学芸術学部写真学科卒業。91年より荒木経惟に師事。主に男性の裸体を中心とした独特な世界を探究し続ける。93年より国内外で展覧会を行う。主な写真集に「裸ノ時間」(平凡社)、「黒間」(Akio Nagasawa Publishing)、「海1967 2022 下関 東京」(リトルモア)、「Träumereij」(便利堂)など多数。



ドローイング&ダンス実技講座 「線を引くことから始まるダンス」

自然の中にはたくさんの線が満ちていて、そこにはそれぞれの時間が流れ多様な動きがあります。このワークショップでは、線の軌跡を観察しスケッチするだけでなく、そこどのような質があるのかを、聴く、触れる、嗅ぐなどのより身体的な方法で捉える事を通じてドローイング(線を引くこと)を試みます。そして今度は、引いた線を自分の身体でトレースすることでダンスを立ち上げていきます。最後には、複数枚のドローイングを切ったり貼ったり、コラージュすることで一枚の舞踊譜を作り、それを元にパフォーマンスを組み立てることにトライします。



●料金／無料 ●定員／10名 ●持ち物／動きやすい服装

講師 藤村港平 FUJIMURA Kohei 舞踊家

ダンスってなんだろう。動くこととは違う。跳んでも回ってもダンスになるとは限らない。しかし、何もしないで突っ立っているだけなのにダンスなこともある。「踊りは何処からやってくるのか、身体は如何にして舞踊する身体になるのか」という問いを通じて、社会と共に変容していく身体のあるり方にダンスはどのように応答することができるのかを模索している。筑波大学大学院人間総合科学研究科修了。



©Shoya Fukunaga

私を見つける森のナイフワーク -生と静の1日-

ネイチャージャーナリングという手法を使い、森の中の「生」をスケッチしながら、徐々に意識を「静」の感覚に向けていきます。「私」の中で起こる対話から見つけた、ものの見方や価値観への気づきを、木を削るナイフワークを使って表現します。



●料金／1500円 ●定員／12名
●対象／林内を歩いて行うプログラムに同行できる方
●持ち物／持ち歩けるサイズのスケッチブック、筆記用具、色鉛筆、定規、飲み物、帽子

10/18(土) 9:00~16:00

会場／岐阜県立森林文化アカデミー(美濃市曽代88)

講師 前野健 MAENO Ken
岐阜県立森林文化アカデミー准教授

学生に木工技術の指導をするかわら「おとなと子どもの里山ナイフ教室」を主宰。県内各地の森や保育園をフィールドに、ナイフワークや工作を通じた場作りと木の普及に取り組む。

ゲスト講師 石岡美優 ISHIOKA Miyu

岐阜県立森林文化アカデミー在学。ネイチャージャーナリングと心理学を用いて「心豊かに生きる」を探究している。



アートのお悩み相談会 & 作品講評会



せきがはら人間村の見学も行います

11/8(土) 11:00~17:30

会場／せきがはら人間村
(不破郡関ケ原町2067番地)

創作活動を行う方だけでなく、鑑賞者、ギャラリスト、コレクター、美術に興味がある方など、誰をも対象としたプログラムです。今年も今まで通り、幅広くアートに関する疑問、質問にお答えしていきます。相談会とあわせて作品へのアドバイスも行うため、制作者はできるだけ実作(大作可)を持参頂き(持参不可能な場合は画像も可)公開講評のようなかたちでアドバイスもしていきます。

●料金／無料 ●定員／12名 ●対象／幅広くアートに関するお悩みをお持ちの方(見学のみのご参加もいただけます)●持ち物／作品制作に関するお悩みをお持ちの場合、ご自身の作品+ポートフォリオ、若しくはその何れか

講師 立島恵 TATEJIMA Kei
佐藤美術館学芸部長

1990年佐藤美術館設立当初より学芸員として運営に参加。佐藤国際文化育英財団の奨学金プログラムの構築、若い作家に対する支援活動、展覧会等を行い今日に至る。現在 公益財団法人佐藤国際文化育英財団理事、名古屋芸術大学特別客員教授、沖縄県立芸術大学非常勤講師、武蔵野美術教育研究所所長、絵画のつくば賞審査員長、デビュー新人賞審査員長、日本水墨画大賞審査員、寺田倉庫アートアドバイザー、美術の窓 表現者の歩みをみつめる「作家行路」連載中。



ゲスト講師 長谷川喜久 福本百恵
(日本画家・名古屋芸術大学教授) (日本画家・名古屋芸術大学非常勤講師)

●料金／1,000円 ●定員／20名 ●持ち物／筆・筆洗(貸し出し可能)・モチーフ(描きたいもの)※モチーフの下図はこちらでもご用意します。

講師 長谷川喜久 HASEGAWA Yoshihisa
日本画家・名古屋芸術大学教授

1964 岐阜県に生まれる
1992 川端龍子賞展 大賞
2011 上海美術館主催 長谷川喜久展
2014 現代日本画の世界サテライト長谷川喜久展
2016 建仁寺塔頭両足院 屏風奉納
2018 第5回日展 東京都知事賞
2019 瑞龍寺 塔頭 天澤院 襖制作
GORO NOGUCHI GOLDEN HIT PARADEプロデュース
2021 長谷川喜久日本画展 感情と記憶のカタチ1991-2021
2022 第9回日展 文部科学大臣賞
日展特別会員 日春会会員 名古屋芸術大学教授



撮影 STUDIO C-PWS
高山栄一

ゲスト講師 安藤祐実・大見真里佳・福本百恵・帆刈晴日

篆刻実技講座

会場／和紙の店 紙遊
(美濃市常盤町2296)

講師 波多野公一 HATANO Koichi
岐阜県書作家協会常任理事



日展会友、読売書法会理事、謙慎書道会常任理事、全日本篆刻連盟理事、岐阜県書作家協会常任理事。深遠な書と篆刻の世界に魅了され研究を続けている。

ゲスト講師 滑田耀齋(日展会友・東京学芸大学講師)
安島可奈子(日展入選・読売書法会幹事)

1/24(土) 10:00~17:00

いにしえ
古の文字を印に刻む 5



講師作「壺天」二種

漢字最古の書体である篆書を石に刻む篆刻(てんこく)。古代の文字に親しみながら、多様な印を鑑賞・分析することが、より自由な印を作るヒントとなります。印刀の使用方法や印面構成のコツ等、篆刻の工程を実演しアドバイスします。手紙や書作品に用いやすい、2cm程度の印を作成します。

●料金／500円 ●定員／14名 ●対象／高校生以上
●持ち物／筆記用具 ※篆刻の道具は貸し出します。希望の方には道具の販売も行います。

1/25(日) 10:00~17:00

書の古典をヒントに大印を作る



美術展や書道展に出品される事が多い、大印の制作に挑戦します。書の古典は、魅力的な文字の宝庫。篆書を用いたもの、その後の書体を含め数多くの名品があります。大いに参考にしてみましょう。大印ならではの刀の用い方や、押印の技法なども解説します。

●料金／1,500円 ●定員／6名 ●対象／高校生以上
●持ち物／筆記用具 ※篆刻の道具は貸し出します。希望の方には道具の販売も行います。

工芸実技講座 鵜籠職人と作る 竹細ワークショップ

岐阜県で1300年以上の歴史がある鵜籠。鵜籠とその鵜籠を支える重要な道具である「鵜籠」について学びながら、竹細工を通じて手仕事の魅力とその奥深さを感じていただきます。長良川うかいミュージアム周辺をめぐるガイドツアーののち、鵜籠でも使用される竹細工「六つ目編み」の盛りかごを完成させます。

2/7(土) 10:00~16:00

会場／長良川うかいミュージアム
(岐阜市長良51番地2)



●料金／1,000円 ●定員／10名 ●対象／中学生以上、床に座って作業ができる方
※細かい作業を含むため、付爪爪や長い爪でのご参加はご遠慮ください。
●持ち物：作業しやすい服装(スカート・タイツ等不可)

講師 安藤千寿香 ANDO Chizuka
竹細工職人

1986年兵庫県生まれ。大学卒業後、岐阜県立森林文化アカデミー進学を機に美濃市へ移住。2012年よりNPO法人グリーンウッドワーク協会竹部会に所属し、長良川の鵜籠で使われる鵜籠の製作を行う他、竹細工の技術継承を目的に竹細工講座なども開催している。



※各プログラムの写真はイメージです。